

事務事業名	陶芸教室事業										事務事業No.	331 - 9		
1. 基本情報														
担当部	担当課			担当係		作成者職名	作成者氏名		所属長職名	所属長氏名				
福祉部	高齢者支援課			高齢総務係		主事	日掛 留美		課長	村上 光				
施策体系	総合計画	政策	3	健幸・子育て										
		施策	3	高齢者が安心して暮らせるまちづくり										
		基本事業	1	高齢者を支える体制づくり										
	その他の計画		個別計画		飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画〔令和6～8年度〕									
根拠法令・条例・要綱等		飯塚市陶芸教室事業実施要綱												
事業開始年度		平成18年度		事業終了年度		—		事務事業類型		ソフト事業				
実施手法		全部委託		補助金等の支給		補助金等あり		実施計画期間		—				
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）														
概要	市内在住のおおむね60歳以上の方を対象に老後を健康で豊かな生きがいあるものとするため、4月から3月まで毎月陶芸教室を開催している。													
対象	働きかける相手・もの	市内に居住するおおむね60歳以上の者で、当該事業の受講年数が10年に満たない者												
手段	方法・働きかけ（活動指標）	陶芸教室の実施												
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	高齢者の生きがいづくりと介護予防の促進を図る												
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）														
指標名		単位	指標の説明（算式等）				前年度実績	本年度実績	次年度見込					
教室の実施回数		回	年度内に開催した教室の回数				47	48	36					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）														
指標	教室受講者数（延べ人数）	単位	達成目標値				前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		人	毎年度		目標値		492	864	648					
説明	教室受講者数（延べ人数）	方向性	達成目標年度		実績		381	423						
		増加	毎年度											
指標		単位	達成目標値				前年度実績	本年度実績	次年度見込					
					目標値									
説明		方向性	達成目標年度		実績									
指標		単位	達成目標値				前年度実績	本年度実績	次年度見込					
					目標値									
説明		方向性	達成目標年度		実績									
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）														
経費区分		一般会計 経常経費				特別会計		—						
予算科目・事業		会計	1 一般会計		款	3 民生費		項	1 社会福祉費		目	2 高齢者福祉費		
		大	5 高齢者福祉事業費		中	11 陶芸教室事業費		他	0 事業					
投入人員 （当該事務事業に対して1年間に投入した人員）	(R2以降)	前年度実績（千円）		本年度実績（千円）		増減理由（10%以上の場合）				次年度予算（千円）				
	正職員	0.08	人	636	0.14	人	1,141	委託料は減額しているが、隣接施設の廃止に伴う本事業への影響、事業の方向性を検討する時間を要するための投入人員の増によるもの				0.17	人	1,385
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0					0.00	人	0
2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00					人	0	
人件費計（A）		636		1,141						1,385				
事業費	直接事業費（B）	1,383		1,162						1,231				
	総事業費（A+B）	2,019		2,303						2,616				
直接事業費のうち の主な歳出内訳		委託料	1,383		1,162						1,231			
		工事請負費・消耗品費	0		0						0			
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0		0						0				
	国・県支出金	0		0						0				
	市債	0		0						0				
	一般財源	2,019		2,303						2,616				
	その他（ ）													

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	低い	民間等においても同様の教室は行われており、市が関与する必要性は薄い。また、事業目的である高齢者の生きがいづくりと介護予防の促進を図ることはできているが、受講生に偏りが見られるほか、新規受講生が少なく、特定の者が増加する傾向にある。
効率性 評価	低い	隣接する伊川の郷の閉鎖により、今後、共用の水道や施設の老朽化による工事等の必要性が見込まれ、事業の継続が困難な状況である。
有効性 評価	やや低い	施策の目的に貢献できていると思われるが、民間等においても同様の教室が行われているほか、その他の方法で生きがいづくり及び介護予防の促進を行うことは可能であると考える。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに－	本年度より受講班の見直しを行っているため、受講生数の傾向を見ながら関係者と協議のうえ、見直しを行っていく必要がある。
一次評価	拡充	実施できる改善策	
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	
	現状維持		
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
昨年度に比べ、受講生の増加等みられるところであるが、隣接する伊川の郷の廃止により、共用の水道に係る費用の高騰が懸念されるほか、窯や施設の維持費を見込み、関係者と協議を行いながら事業の見直しを行った。			

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成果〕	高齢者の生きがいづくりと介護予防、認知症予防、引きこもり防止など、成果は得られている。
〔課題〕	事業の成果だけでなく、隣接する伊川の郷の廃止（R7.3.31）による影響額や施設老朽化による工事費用等含め、事業の継続について検討した結果、次年度12月をもって廃止と決定したため、廃止に向けた関係者との協議や受講者への説明、事務処理を行う必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕 事業目的である高齢者の生きがいづくりと介護予防の促進を図ることはできていると思われるが、陶芸教室に限らず方法は様々であると思われる。また、隣接する伊川の郷の廃止による影響額や施設老朽化、窯の維持費等を鑑み、令和7年12月末での事業廃止を決定しているため。
廃止	
コスト投入の方向性	〔理由〕 隣接する伊川の郷の廃止による影響額や施設老朽化、窯の維持費等を鑑み、令和7年12月末での事業廃止を決定しているため。
縮小	
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	－
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	事業存続のため、他施設での事業実施について検討を行ったが、窯を持つ施設はなく、また、現施設での実施を継続する場合、施設及び窯の老朽化、水道工事に高額な費用を要し、継続が困難な状況であることから、次年度は12月までの実施とし、事業を廃止することとしている。今後、廃止に向けた事務処理が必要となるほか、関係者との協議や受講者への説明により、コストを要することが想定される。

評価変更理由	成果の方向性	隣接する施設の廃止による影響や民間サービスで代用できるものは公費投入の対象としては優先度が低くなることから廃止。 廃止のためコストは縮小。
	廃止	
	コスト投入の方向性	
	縮小	